

世界統一政府の出現

2025年11月16日

ダニエル書 2章27～45節
7章1～27節

序：大患難期の前に起こること

(1) (時系列)

- ☆①世界戦争
- ☆②イスラエルが国家として再建（離散している地から帰還）
- ☆③ユダヤ人のエルサレム奪還・統治
- ★④北からの数ヶ国の連合軍がエルサレムに侵攻
- ★⑤世界統一政府の出現
 - ⑥十の王国（世界統一政府が分裂）
 - ⑦反キリストの台頭
 - ⑧一時的な平和と安全（⑥と⑦が進行中）
 - ⑨反キリストとイスラエルの7年の契約（大患難時代のはじまり）

(2) (どの段階で起こるか不明) 時系列でない

- ①暗黒（第一回目、全部で5回）
- ②エリヤの到来（メシア再臨の備え）
- ③第三神殿
- ④教会の携挙
- ⑤キリストの御座のさばき（携挙された信者への報奨）
- ⑥キリストと教会との婚姻

⑤⑥は④の結果

I. 四つの異邦人の帝国

(1)ダニエル 2・31～45

巨大な像（王の夢）

①頭（純金）：バビロン

②胸と両腕（銀）：メド・ペルシャ

③腹ともも（青銅）：ギリシャ

④すね（鉄）と足（鉄・粘土）：ローマ

ダニエル7・1～8

四頭の巨大な獣

①獅子（鷲の翼、人間の心）

②熊

③豹（ひょう）4つの翼と頭

④強力、獐猛な獣

(2) ①～③の帝国は主イエス・キリストの初臨の前までに滅亡

(3)最終的に全世界を支配するのは④のローマ（4つのステップ）

II. 第四の帝国

(1)変遷

①ローマ帝国 B. C. 63～A. D. 364

ポンペイウスがフェニキア、シリア、ユダヤを征服したのが始まり
ローマ帝国が東西に分裂するまで

②東西分裂の時代 A. D. 364～現在

③世界統一政府の段階 今後起こること

④十の王国への分裂



反キリストによる支配

(2)今、現在は東西分裂時代

経緯

①A.D. 364年

- 兄弟がローマ帝国の配分を話し合う
- 兄のウァレンティニアヌスは西方帝として、ローマ帝国西部を統治
イタリア、ヒスパニア、ガリア、ブリタンニア、アフリカ(地中海沿岸)
現在の西ヨーロッパ
- 弟ウァレンスは東方帝として、ローマ帝国東部を支配
バルカン半島の東半分、ギリシャ、シリア、小アジア、ペルシャ

②東ローマ帝国 (A.D. 364~1453)

首都はコンスタンティノープル、西ローマがなくなった後も存続
オスマン帝国によって征服された
東ローマ帝国の上層階級はロシアに逃げ、ローマ帝国風政府を立てた
モスクワは第三のローマ(15~16C)
一方、7Cより台頭してきたイスラムの脅威にさらされている
東の勢力の中心はロシア

③西ローマ帝国 (A.D. 364~476)

首都はローマ

476年、西ローマ皇帝が追放される (by ゲルマン人隊長オドアケル) : 帝国滅亡
主権者の変遷 : フランク王国のカルル大帝 = シャルル1世
ローマ教皇レオによりローマ皇帝として戴冠
ドイツのオットー大帝 = オットー1世がフランク王国滅亡後
二人とも自国領を神聖ローマ帝国、自らをカイザルと称した
第一次世界大戦後、民主主義の国々を中心に存続している

ローマ帝国そのものは消滅したが、第4の帝国は引き続き東西二つの勢力として存在している

III. 結び

(1)現時点では、世界は東西のローマ帝国の流れが均衡並行している

(2)先週学んだ「北の連合軍によるイスラエルへの侵攻」にあったように、東の勢力はイスラエルの地で敗北、主によりさばかれる

(3)その結果、西の勢力だけになり、世界統一政府への道が展開されていく

(4)ダニエル7・23がその強力で破壊的な国の登場の預言
今までにローマ帝国が全世界を支配したことは歴史上皆無

(5)この預言は世界統一政府の出現により成就する